

## Mr. President

MLBは、アメリカ合衆国の顔である歴代大統領にも愛されてきた。ケネディ大統領には、彼自身が「野球次官」と呼ぶ側近がいた。この人物の任務は、MLBの試合結果とチームの順位と選手の成績を、大統領に報告することであった。

アメリカ合衆国に春の到来を告げるMLBの開幕ゲーム。始球式は大統領の手で行われることが多い。



【J.F.K threw the first ball】

特に始球式が行われない試合の前でも、必ず行われるセレモニーが国歌斉唱である。「The Star-Spangled Banner」は、1931年にアメリカ合衆国の正式な国歌として議会により承認されたが、それ以前から陸軍と海軍では、国歌扱いで歌われていた。第1次世界大戦中の1915年、ワールドシリーズの試合途中で国威高揚のために演奏されて以来、MLBの試合前には必ずこの曲が流れるようになった。つまり、正式に国歌となる以前から、ボールパークではこの曲が歌われていたのである。

## More popular than national anthem

その国歌よりも有名な歌がアメリカにはある。MLBのどの球場、どの試合においても必ず歌われる、「Take Me Out to the Ball Game」である。7回の表が終了すると、大人も子どもも立ち上がり、声高らかに、この曲の大合唱を始める。MLBが、「National Pastime」として親しまれていることが認識できる瞬間である。

Take me out to the ball game,  
Take me out with the crowd.  
Buy me some peanuts and cracker jack,  
I don't care if I never get back,  
Let me root, root, root for the Home team,  
If they don't win it's a shame.  
For it's one, two, three strikes, you're out,  
At the old ball game.

MLBには、アメリカ合衆国の歴史および文化的特性が深く溶け込んでいる。合理的なルールと公正な判定は「法の支配」の原則に相応しており、両チームのイニング数を制度上両分することは「機会均等」の理念に適っている。18.44メートルを挟んで正々堂々とした立ち振る舞いが求められるピッチャーとバッターの対決は、さながらフロンティア時代のガンマンを彷彿させる。「正義」を重んじるアメリカ社会では、危険なボールを投げる、あるいはバットで相手投手を威嚇するような行為は非紳士的と見なされ、報復の対象となる。当然のことながら「人種差別」というアメリカの特性も、MLBに色濃く反映されてきた。今でこそ人種や国籍の壁もなく、広く門戸が開かれたMLBだが、20世紀の初頭はそうではなかった。野球は白人のスポーツであり、選手も観客もすべてが白人であった。

最後に紹介する題材は、奴隷時代の面影を引きずる“ニグロ・リーグ”から、人種の壁を越え、歴史の扉を開けた一人の偉大なメジャーリーガーの物語である。